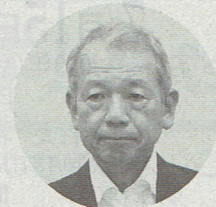


法整備や商品開発をテーマに議論

繊維リサイクル技術研究会 18周年記念の総会・講演会



酒井幸男会長

で、2018年のリサイクル率が90・8%になり、4年連続で90%を超えたことを明らかに

今後、卸売市場との関係維持やマテリアルリサイクル調査先の新規開拓、協会会員のエプシープラザのリサイクル体制の充実などに取り組むたい」と述べている。

18年の発泡スチロール(EPS)回収対象率(%)が8・9%、ケ

マテリアルリサイクル6万3648トンのうち、インゴット(減容固化物)が82・2%、ペレットが8・9%、ケ

懸念があるEPS廃フ

最大95%使用したパツ

を重視したい」と述べ

と協同で、7月からス

回収

アパレル関連企業や故繊維業者、学識者などで構成する(一社)日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会(委員長・木村照夫)京都芸織維大学名誉教授(は)6月26日、京都市の同大学内で、設立18周年記念総会・講演会を開催した。約80人が参加し、「どうなる? どうしたい! 繊維リサイクル」をテーマに活発な情報交換を行った。

発を目的として、業界の川上から川下まで幅広いネットワークを構築。最近では社会システムの構築など、より幅広い観点・分野からのアプローチを進めている。現在の会員数は、今年度事業計画では、「冊子『循環型社会と

織維」の続編の出版準備」や「廃棄学校制服のアップサイクルによる衣類ごみ減量化の啓発」などが承認された。記念講演には、経済産業省製造産業局生活製品課の課長補佐である荒木貴志氏が、「繊維分野におけるサステイナビリティと環境問題に関する国際社会及び国内制度」と題して登壇。国内外の繊維産業の概況からプラスチックごみ問題まで幅広く解説した後、「繊維リサイクル法」の可能性について、「現時点では、再商

品化が難しいことなどから、簡単に実現できない場合はない。事業者への指針としてガイドラインを制定する選択肢はある」などの考察を述べた。

山陽製紙 再生紙でレジヤシート2種 使い捨てなしの新製品

山陽製紙(大阪府泉南市、原田六次郎社長)は、自社の再生紙ブランド crepe(クレプ)を使い、tuper(ツペラ)とコラペレーションした製品2種を完成、7月17日から発売する。

同社は「環境に配慮した循環型社会への貢献」を経営理念に商品づくりを進める。再生紙ブランドのクレプも、撥水性、耐久性の高い同社の工業用再生紙を生かし「使い捨てにしない紙」という提案をしている。

「ラクで遊ぶうーラクを楽しよう」。子供が外で遊ぶようになるような商品で、自然を楽しむ、自然や紙を大切にすることを育みたいという同社の思いに共感したツペラツペラとの商品開発が実現した。アイデアを出し合



木村照夫委員長



会場の様子

同研究会は2001年の設立以降、繊維廃材のリサイクル技術開

「冊子『循環型社会と

「冊子『循環型社会と

「冊子『循環型社会と

「冊子『循環型社会と

「冊子『循環型社会と

プラごみ回収と

国際機関や企業等多様

でプラスチックごみの

ットでは、2050年

り組む「おおさかプラ

ラセミナー

0円(税込)

0円(税込)